

# 国際部会

## 第13回神戸国際交流フェア開催 国10-国 土井昭政

今年で13回目になる神戸国際交流フェアが、3月21日、22日開催された。

21日は、午後から三宮の国際会館20階にある神戸国際協力交流センターでシンポジウムが開催された。JICA兵庫所長森川秀夫氏の“国際協力・交流の新しいカタチー兵庫・神戸から”と題した基調講演があり、その後“草の根国際協力・交流”をテーマに森川氏、ミャンマー皆好会の権藤氏、AFS神戸の濱田氏、エフエムわいわいの日比野氏によるパネルディスカッションがあった。夫々の方々の国際協力・交流活動の実態紹介、喜びと苦悩、将来ビジョンなどが紹介された。

ひきつづき、“語りあおう 世界と神戸”をテーマに5団体のリレートークがあった。県立舞子高校生徒による四川との防災交流体験、市立こうべ小学校での国際性を生かした種々の行事紹介、中華同文学校の社会との関わり など今年は学校の国際交流活動の話が中心であった。

当日5時半から交流パーティーが開かれ、文字通り参加者の交流が果たされ、国際部会からも5名参加した。翌22日はハーバーランドのデオドームとスペースシアターに会場が変わり、11時から5時まで、デオドームでは21団体のブース展示と民族衣装ショー、スペースシアターでは、20団体の出店と23団体のステージショーがあった。



今年はフェア参加団体に5000円の参加費が必要となり、若干参加団体が少なく特に飲食の出店が少なかった。グループわ国際部会は、例年ど

おりデオドームの展示に参加し、しあわせの村、シルバークレジット、グループわ、国際部会などの紹介チラシを日本語と英文で配布した。我々の展示場所が、展示会場の入り口付近であったこと、今年から参加したアメリカ領



事館の展示場所に近かったことで、来訪者も多く、大いに“わ”国際部会のPRができたのではないかと考えている。

今年から参加したアメリカ領事館の展示場所に近かったことで、来訪者も多く、大いに“わ”国際部会のPRができたのではないかと考えている。

### 季節の草花

#### つゆくさ 生8文 久保知彦

日本全土、アジア全域、アメリカ東北部など世界中に広く分布する。6月から9月頃にかけて青い花をつける。早朝に咲いた花は午後にはしぼんでしまうという短命な花。ツククサ科の一年草で草丈30cm余り、平行脈のある細長い葉が互生する。

朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させるので「露草」と名付けられたとも言われる。古くは「つきくさ」と呼ばれており、「つきくさ」が転じて「ツククサ」になったとの説もある。

水気のある土地だと、茎の節々から根を出しどこまでも伸びて行く。可憐な感じとは裏腹に生命力の強い草である。

貝殻のような形の苞の中にいくつかのつぼみができてひとつずつ伸びて花が開く。

青くて大きな2枚の花びらに白い小さな花びらが1枚、計3枚の花びらの中から1本の長い雌しべと2本の長い雄しべがあり、さらに短く黄色の葯をつけた雄しべ(仮雄蕊)が4本ある。

花の青い色素はすぐ退色する性質があるので染物の下絵を描くための絵の具として用いられたという。これで染めた色を露草色という。

